

# 沈黙に向き合う

沖縄戦聞き取り47年

(82)

石原 昌家

本連載の平和祈念資料館問題シリーズのクライマックスとなった第80、81回(4月20日付、4月21日付)をお読みくださった読者から思いもよらないコメントが寄せられた。

## 文化

長野県の弁護士さんからは「当時の緊張感が直に伝わってきました。県政上の問題に対する地元2紙の報道ぶりについて、沖縄には新聞を含めて米軍統治の庄

### 県 変更前に戻す



内部文書群も提出  
監修委 全会議録を公開へ

県平和祈念資料館の展示変更問題で、監修委員の承認を得ていた変更前の展示に戻すことが決まったことを報じる1999年10月13日付琉球新報朝刊の社会面

そぎ落とすように、おそろの関連を指摘された。本シリーズで深掘りする予定を受けていたのではありませんか。稲嶺知事ご自身の思想や平和観というよりは、ヤマトへの忖度思想のような感じがします。「自発的服従」によって、民衆の敵になることを、それで

### 平和祈念資料館問題⑮

# 県、変更前展示に戻す

## 改ざん再発の懸念も

文書群も提出/監修委 全会議録を公開へ(写真参照)という見出しを読んだ読者は、ほっとしたはずだ。もはやトップ記事にはなっていないが、事の成り行きが、以下の本文で知ることができる。

「新県平和祈念資料館の監修委員会(宮城悦二郎会長代理)が12日午後、県庁で開かれ、県から監修委員会への承諾なしに進めてきた展示変更作業を記した見聞した。また監修委員から変更指示について稲嶺一知事の釈明を求める声が上がった。委員会終了後に記者会見した宮城会長代理、石原昌家、星雅彦の両部会長によると、展示工事業者から展示変更案に基づいて作製した製作物が存在するという前提で「壊していいですか」と県に確認を求めた場面があったという(連載前回に参照した写真のこと)。

の「県民の心を抹消する」という痛切な反発は琉球沖縄の心ある人々に共通するものであったと思います。ヤマトに生きる私として

### 的外れな批判

も、何か息が詰まるような思いでこの連載を読まされていたと思います」と、それぞれから私の思いを超えた感想が寄せられた。

1999年8月11日のスクリップ記事からはじまった「新資料館問題」は、琉球新報の10月13日朝刊の次の記事で、大詰めを迎えていることが読者に伝わった。社会面に「新資料館問題/改ざん資料」を直接目にしたところではなかった。新聞の取材記者と文教厚生委員会

「これを受けて監修委員会は三年にわたるすべての会議録を一般に公開することを決めた。また会議では、その後の「知事声明」と連動して、新たな展示改ざんの余地を残した言葉が発注していたことも明らかに。三月時点の監修委員承認案に戻すことを確認した」

「また監修委員から変更指示について稲嶺一知事の釈明を求める声が上がった。委員会終了後に記者会見した宮城会長代理、石原昌家、星雅彦の両部会長によると、展示工事業者から展示変更案に基づいて作製した製作物が存在するという前提で「壊していいですか」と県に確認を求めた場面があったという(連載前回に参照した写真のこと)。

「これに対して県側が『打ち合わせて活用することもあり得る』と述べ、事実上、変更指示による製作物の存在を認めた。県は県議会などでも業者への変更指示はないと答弁しており、これらも虚偽であることが分かった」

「また今年三月と七月に知事に求めている事柄が記事化されている。」

「また今年三月と七月に知事に求めている事柄が記事化されている。」

(次回は7日掲載)